

目指す学校像	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子を育成する学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～
--------	---

重点目標	1 情報端末を活用した「個別最適な学び」の実現と、集団で学ぶよさを生かした授業改革 2 「認め、褒め、励ます教育」の実践による、児童の自己肯定感の育成 3 保護者・地域との信頼関係のもと、コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動 4 教職員一人一人が自らの力を発揮し、生き生きと働くことができる職場づくり
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月8日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べおおむね良好な結果である。 ○自らの興味があることについて調べ、プレゼンテーションすることに意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、「国語がすき」「算数が好き」の問いに対する肯定的な回答が全国、市平均より低い。また、無回答率も高いことから、難しいことに挑戦したり、学習に主体的に取り組んだりする意欲をなくむ授業改善が求められる。 ○全国学力・学習状況調査の結果を個別にみると、知識・理解の定着が不十分な児童がいる。	・個別最適な学びに向けた、タブレット端末を活用した授業改善 ・学ぶ意義や楽しさを実感する「総合的な学習の時間」の実施	①ドリルパークやスタディサプリなどの学習の取組状況を基に学習相談を実施し、児童が目標をもって自ら調整しながら学習を進めることができるようにする。 ②学びのポイントを明記した指導案により、情報端末の活用を必須とした授業を、全教職員が年2回以上公開し学び合う。	①全児童に対して、学期に2回以上、学習の取組状況をもとにした学習相談を行うことができたか。 ②年2回、学びのポイントを明確にした公開授業を全教職員が実施することができたか。	①高学年においては学習の取組状況を確認し、月に1度程度助言を行うことができた。低・中学年においては、毎日の宿題をきちんと提出させる指導にとどまった。 ②全教職員が年2回以上の公開授業を実施することができた。各授業において、「学びのポイント」を踏まえ、児童用タブレットを活用した授業を実施した。	B	・自ら調整しながら主体的に学ぶ力を高めるため、新たに研究テーマを定め、沼影小学校と連携しながら取組を進める。 ・全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果や課題を踏まえた授業改善のため、引き続き、全教職員の2回以上の授業公開に取り組む。	・小学校では「基礎」を鍛えてほしい。決められたことをきっちり行う力をつけることが大事で、主体性はそのあとの段階と考えている。宿題をきちんと提出させる指導は重視してよい。 ・立ち歩く児童がいる。興味を高める授業づくりは大切である。
2	<現状> ○学校評価において「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的な回答が87%である。また、「学校は子どものよさを認め、励ましている」の保護者の肯定的な回答は85%である。 ○昨年度、学校管理下でのけがで医療機関を受診したけがは63件であり、増加傾向にある。 <課題> ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが課題である。 ○教職員の死角になる場所が多い。児童の安全に係る点検を確実に実施するとともに、児童自ら危険を予測したり回避したりする力をなくむ必要がある。	・児童一人ひとりのニーズに応じた支援に向けた校内体制の充実 ・施設・設備の管理の徹底による安全な生活の実現	①「認め・褒め・励ます」声掛けについて全教職員で共有し、実施する。 ②家庭と協働による道徳教育を実現するため道徳の授業公開を行う。 ③教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援を行う。	①学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が9割以上となったか。 ②全学級で道徳の授業公開ができたか。 ③学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が9割以上となったか。	①学校評価において、児童「自分にはよいところがある」の肯定的な回答が87.9%、保護者「学校は子どものよさを認め、励ましている」90.8%の肯定的な回答を得た。 ②全学級で道徳の授業公開もしくは、保護者と連携した道徳授業を実施した。 ③保護者アンケート「学校は保護者から寄せられた具体的な相談や要望を把握し、適切に対応している」90.1%の肯定的な回答を得た。	A	・よい評価をいただいた一方で、「がんばったことや良いところを褒めたり励ましたりしてもらっていない」と答えた児童が1割いた。教職員に「コーチング」研修を行い、「認め・励ます」指導の在り方について徹底する。 ・引き続き、児童の様子をよく観察し、保護者への迅速な連絡と相談体制を確立する。	・中学校では自己肯定感が低いと聞いた。努力をよくほめる、係活動等自己有用感を感じられる取組を充実させるなど、小学校で根気強く自己肯定感を高めていてよい。 ・市民会議では「ほめよう、形にしよう」という取組がある。ぜひ利用してほしい。 ・小・中一貫教育の研究授業をみたが、とてもよかった。子ども自身が通学路の安全について、家に帰ってきてからも問題意識をもって語っていた。そのような授業を続けてほしい。 ・倒木のニュースがあった次の日には校庭の点検をするなど、対応が素早くよい。
3	○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「自ら課題を見出し、協働して解決していく児童」を地域全体で育てていくことを共有した。 <課題> ○目指す児童像の実現に向けた方策を、学校、地域、家庭それぞれで定め、継続的な行動に向けて取り組みを開始する必要がある。	・目指す児童像の姿を地域で共有するための、教育活動の公開 ・目指す児童像の実現のための、学校・家庭・地域の具体的方策の決定と行動	①学校ホームページに、教育活動や児童の活動の様子を発信するページを作成し、月3回以上更新する。 ②学校だよりにおいて地域や保護者に学校の情報提供を行い、学校の教育活動や児童の成長に関する関心を高める。	①ホームページを月3回以上更新できたか。 ②学校評価にかかる保護者アンケートで、「児童の様子や学校の取組がわかる」について肯定的な回答が9割以上となったか。	①ホームページはほぼ毎日更新し、閲覧数は5万件を超えた。 ②学校評価保護者アンケートで「学校の取組や成果等の情報公開に努めている」では、94.0%の肯定的な回答を得た。	A	・毎日のブログの更新が大変好評のため、継続して行う。 ・手紙について、電子化の要望も出ており、確実に保護者に連絡が届く方法について検討したい。	・ブログでは、日常の取組がよくわかる。中でも、子どもの願いを形にしていけるプロセスが分かってとてもよかった。 ・子どもが主役であるので、子どもの声をききたい。 ・配布物の電子化はぜひ進めてほしい。紙の手紙では家庭に届かない場合がある。PTAもその形にしていける予定である。
4	<現状> ○ICT機器の効果的な活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 ○全教職員の年3回の公開授業を中心に据えた研修を進めている。 <課題> ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。情報共有を図り、だれでも活用できるようにする必要がある。 ○熱心に授業準備を行うために、時間外在校時間の平均が40時間を超える月がある。	・一人ひとりがもてる力を発揮し、協働できる教職員集団の構築	①毎月1回ICT機器の活用について実践的な研修を実施する。また、共有のフォルダを活用し、個人で作った教材や教育委員会から出された教材を誰もが活用できるようにする。 ②健康を維持し、自らの資質を高める時間を確保するため、業務の整理をし、効率的な働き方に向けて毎月自らの記録表を見ながら振り返る。	①ICTを活用して効率化を図る業務を新たに実施することができたか。 ②すべての教職員が業務改善に取り組み、学校評価に係る教職員アンケートで「業務改善・働き方改革」について肯定的な回答を8割以上にすることができたか。	①各種アンケートはICTを活用して効率化を図ることができた。また、授業での活用が進み、データで課題提出を行う場面もでてきた。 ②会議の精選や学期末ノー会議週間など、効率的な業務推進の環境整備に取り組み、学校評価に係る教職員アンケート「業務改善・働き方改革」について肯定的な回答は76.7%となった。	B	・学習ログが残り、個別最適な学びにも活用しやすいため、ICT機器活用をより強力に進めたい。 ・職員の仕事作業を行う時間の確保と、事務作業の削減の両面から環境をさらに整えたい。	・校庭開放の夜の部で学校に来ているが、先生方の帰りは確実に早くなったと感じている。 ・子どもの前に元気で立てるように、また、良い授業ができるように、精選と集中をバランスよく行ってほしい。

目指す学校像	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子を育成する学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりのWell-Beingを保障する学校をつくる。</li> <li>地域とともにある学校を実現する。</li> <li>安全で清潔な学校をつくる。</li> <li>自分で考える、自分で決める活動を意図的に取り入れ、「真の学力」を育成する。</li> <li>ワークライフバランスを整え、一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる</li> </ol>
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国・学力学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。 ○様々な要因によりストレスを抱えている児童がいる。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に相談・支援していく体制を継続していく必要がある。 ○決められたことには取り組むが、自らのアイデアを表現したり、自ら計画を立てて取り組んだりすることに消極的な児童がみられる。	・主体的に活動する児童の育成 ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談にかかる組織的な対応の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童のよさに着目する「努力を認め励ます」教育を推進する。</li> <li>成功のなぜを問い、失敗の次を聞く指導を徹底する。</li> <li>委員会活動を中心に、自らのアイデアを実現する機会をもつ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的評価を維持できたか (R5:87%)</li> <li>委員会活動において、自らのアイデアによるキャンペーンを実施できたか。</li> </ol>					
2	<現状> ○学校運営協議会で、地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標に向かってできることをアクションプランにまとめた。 <課題> ○コロナ禍を経て、地域の方を授業に招く実践が減少した。 ○地域の一員として、地域や社会をよりよくするために何かしたいという意欲を育む必要がある。	・浦和大里地区の子どもたちの健全育成 ・目指す子供像を家庭や地域と共有するための教育活動の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場をつくる。</li> <li>地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標にむかってできることをまとめたアクションプランに基づき、進捗状況や成果などを話し合う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会に児童が参加し意見を述べる事ができたか。</li> <li>学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の5～6年児童の肯定的評価の向上。(R5:77%)</li> </ol>					
3	<現状> ○予算委員会を実施し、目的を明確にした購入計画を立て、計画的に予算を執行している。 ○数年間使用していない物品が校内に点在している。 <課題> ○落ち着いた環境づくりのため、教職員による施設設備の安全点検や整理整頓を確実に行うとともに、児童自らが生活環境を整え、安全意識を高める力を育む必要がある。	・教育環境の整備 ・安全に生活しようとする児童の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>不要なものの廃棄を積極的に行い、整理整頓する。</li> <li>安全点検や校内巡視で判明した瑕疵は、事務担当や業務担当と連携をとり、未対応を0とする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>職員室や教材室を誰もが検索しやすい状態にできたか。</li> <li>安全点検や校内巡視で判明した瑕疵に対し1週間以内に対応できたか。</li> </ol>					
4	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習意欲・学力ともに個人差が大きい。 <課題> ○ICT活用状況のデータ等を用い、学力の現状をとらえ、個別の支援を講じるとともに、自らが、自分の課題を見出せるよう支援する必要がある。 ○学んできたことを生活に生かすことができることを実感できるよう、教員の働きかけが必要である。	・真の学力の育成 ・学び続ける児童の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善を研究する。</li> <li>全教員が、学習の質的向上を目指し、年3回以上の公開授業を、GIGA端末の活用を必須として実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業により、確かな学力ややり抜く力を育てている」の職員の肯定的評価が向上したか。(R5:79%)</li> <li>年3回の公開授業をGIGA端末を効果的に活用して実施したか。</li> </ol>					
5	<現状> ○時間外在校時間の平均は36時間程度である。 ○教職経験年数の平均が4.4年である。 <課題> ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が増える時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。	・生き生きと働き続ける教職員集団づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>時数を整理し、学期初めの4時間授業、学期終わりの放課後フリーを実現し、事務作業を行う時間を確保する。</li> <li>専科を学年の副担任として配置し、児童を多くの目でみたり、協働したりしやすい状況をつくる。</li> <li>年休の計画的な利用を促進するため、個人申告による年休取得計画をたてる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間をとることができる」の職員の肯定的評価が向上したか (R5:73.7%)</li> <li>学校評価「職場で教職員が協働し合う体制が整っていると感じますか」の職員の肯定的評価が向上したか (R5 教員等の勤務に関する意識調査 75%)</li> </ol>					